

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス パーシー			
○保護者評価実施期間	R7年12月1日		～	R8年1月10日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	27人	(回答者数)	25人
○従業者評価実施期間	R7年12月1日		～	R8年1月10日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5人	(回答者数)	5人
○事業者向け自己評価表作成日	R8年1月15日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どもたちの支援に対する満足度が高いこと	活動プログラムが固定化しないよう、スタッフ間で話し合い、子ども一人一人のレベルも考慮し、楽しみながら取り組める内容を検討している。	ひとりひとりの好きな物なども、プログラムに取り入れる事ができれば、より興味を持って活動に参加出来るのではないかな。
2	子どもについての情報共有をスタッフ間で細めに行い、計画作成に活かしていること。	毎朝のミーティングも含めて、スタッフ間が話しやすい環境作りや関係性作りを行っている。そのため、何かあればすぐにスタッフ間で相談や報告が行えるようになり、子どもにとっても、より良い支援が行えるようになっている。	これからもスタッフ間でのホウレンソウをしっかりと行い、スタッフ全員で統一した支援が行えるよう努めている。
3	活動プログラムについて、ほぼ全員のスタッフで話し合い、立案をチームで行っていること。	毎朝のミーティングも含めて、スタッフ間が話しやすい環境作りや関係性作りを行っている。そのため、活動プログラムもほぼ全員の意見が出しやすくなり、チームでの立案が出来ている。	これからもスタッフ間での関係性を築いていき、より意見を出しやすい環境を整え、情報共有しながら活動プログラムを検討、立案していく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	個別対応が必要な子どもに対して、十分な空間が確保できていないこと。	事業所の構造上、部屋の確保が難しい。	パーティションや、間仕切りをすることにより、少しでも外的刺激が少ない環境を作ることが出来るのではないかな。
2	児童発達支援センターや、社会福祉協議会等とのつながりがほとんどないこと。	日々の活動プログラム検討や業務に時間をかけているので、外からの情報を取ることが少ない。	他事業所との連携も含め、外からの情報を積極的に得るようにしていく事が必要。
3	保護者への色々な情報の周知が足りない。	子どもに対しての様子や情報を伝えることは多くあるが、事業所内にあるマニュアルの情報や、保護者参加の研修等の周知をしていなかった。	非常時の対応について保護者に周知をする必要があるため、今後周知していく。